

平成16年2月16日

各位

会社名 京セラ株式会社
代表者名 取締役社長 西口 泰夫
(コード番号 6971 東証・大証第1部)
問合せ先 執行役員常務 財務統括部長
石田 秀樹
(TEL 075-604-3500)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、昨年10月28日の平成16年3月期中間決算発表時に公表した平成16年3月期(平成15年4月1日～平成16年3月31日)の通期業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 当期の連結業績予想数値の修正(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	税引前利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成15年10月28日発表)	1,140,000	79,000	50,000
今回修正予想(B)	1,140,000	104,000	64,000
増減額(B-A)	-	25,000	14,000
増減率(%)	-	31.6	28.0
(ご参考)平成15年3月期通期実績	1,069,770	76,037	41,165

2. 当期の単独業績予想数値の修正(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成15年10月28日発表)	510,000	56,500	38,000
今回修正予想(B)	495,000	55,000	53,000
増減額(B-A)	15,000	1,500	15,000
増減率(%)	2.9	2.7	39.5
(ご参考)平成15年3月期通期実績	482,834	54,685	27,923

3. 修正の理由

連結:

米ドルに対する円高が進行しており、円高によるデメリットは前回発表予想(昨年10月28日公表)時の想定を上回る見通しです。しかし、デジタル家電、パソコン及び携帯電話等に関連する電子デバイスならびに半導体部品の売上が、前回発表予想時の計画以上に伸びており、また北米子会社の携帯電話端末の売上も計画に上積みとなったことが加わり、売上高は前回発表予想を達成できる見通しであります。

利益面では、部品事業全般における採算の向上が計画を上回る進捗となって部品関連各事業の利益が前回発表予想時の計画を上回ることに加え、厚生年金基金の代行部分の返上により当期に約200億円の利益の計上が見込まれます。これによって、税引前利益は、前回発表予想を250億円上回る1,040億円となり、当期純利益は同じく140億円上回る640億円となる見通しであります。

単独:

円高によるデメリットならびに機器関連事業の売上が計画を下回ることにより、単独売上高は前回発表予想を下回る見通しです。単独決算においては厚生年金基金の代行部分の返上による特別利益が約320億円発生する見込みであり、当期純利益が前回発表予想を上回る530億円となる見通しであります。

以上

業績予想に関する注意事項

この配布資料に記載されている記述には、1934年米国証券取引所施行21E条に定義される「将来予想に関する記述」(forward-looking statements)が含まれています。これらの将来予想に関する記述は、現時点で入手できる情報に鑑みて当社が予想を行い、所信を表明したものであります。これらの将来予想に関する記述は、既知及び未知のリスク、不確実な要因及びその他の要因を含んでいます。かかるリスク、不確実な要因及びその他の要因は以下のものを含みますが、これらに限られるものではありません。(1)当社が関連する市場の状況(特に、日本、米国、欧州及びアジア(中国を含む)の経済状況)、(2)円と当社の売上高の相当な部分を構成している通貨(特に、米ドル及びユーロ)との為替レート、(3)競争の激しいセラミック、半導体部品及び電子部品市場における当社の、革新的な製品を提供し、顧客の要求に沿った先進技術を投入する能力、(4)通信やパーソナルコンピュータを含む世界の情報技術市場の将来における成長または縮小の規模及び速度、(5)テロ行為、SARSなどの疫病の発生、その他当社の市場やサプライチェーンに混乱を与える可能性のある要素。かかるリスク、不確実な要因及びその他の要因により、当社の実際の業績、事業活動、展開または財務状況は、これらの将来予想に関する記述に明示または包含される将来の業績、事業活動、展開または財務状況と大きく異なる場合があります。当社は、この配布資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。